

●夏

○35

初夏郊行(III8/5/2作)

(仄起式、押韻は、平声十三「元」である。)

新緑の眩しい時期になりました。拙宅から眺める
富嶽も段々と霞んでくるようになりました。そろそ
ろ田植えの時期ですね。新しい息吹を感じる昨今で
す。国の本は農です。新たな農村の復活を望まず
にはおれません。

雪解 四山緑 樹 著
蛙 喧 水 緩 美 田 村
眼前 富嶽 雲 光 淡
声 在 日 長 農 事 繁

○26

集夏祭(III6/7/27作)

(平起式、押韻は、下平声八「庚」である。)

地区の夏祭りです。笛や太鼓の音に釣れられて多
くの人々が集まってきました。盆踊りも最高潮に、
花火に人々もどよめきます。まるで村中の人々が
狂ったように踊っている平和な村の夏です。

遠聞 鼓 笛 日 西 傾
困 櫓 渦 膨 歩 々 軽
暮 夜 夏 華 皆 響 動
民 人 狂 舞 一 村 盈

○25

猛夏 (H16/7/14 作)

(仄起式、押韻は「二」東である。)

退官して初めての夏がやってきました。毛穴が開
まりっぱなしだったので、対応が困難です。空梅雨
の梅雨前線が去り、太平洋高気圧がのさばっていま
す。たまりません。

低去高来塊覆空
炎球閃々駐蒼穹
路人脱服汗如瀑
灼熱焦途靄氣籠

○10

十勝初夏 (H16/6/29 作)

(仄起式、韻は、下平声「九」である。)

十勝は今が最高の季節です。意を尽くし得ません
が、その風景を詠んでみました。

十里稍變草色青
空高風爽盈陽光
植花耕畝人無數
空地蒼々万象昌